



photo by Frank Vincentz CC-BY-SA, from Wikimedia Commons

○ オウセイ(黄精)

語源

Polygonatum : ギリシャ語の「多い」(poly) + 「膝、節」(gonu) 根茎に多くの節があることにちなんでいる。

falcatum : 「falcatus=鎌状の」という意味で、葉が鎌状であることから。

和名のナルコユリは、花が並んで下垂する状態を、水田で害鳥を追い払う鳴子にたとえたもの。

黄精とは、根茎が黄色の強精薬であることから名付けられたという。また、精を出しすぎて物が黄色に見えるとき、それを回復させる秘薬という説明もある。

基原

ナルコユリ *Polygonatum falcatum*

カギクマバナルコユリ *Polygonatum sibiricum*

Polygonatum kingianum

Polygonatum cyrtoneura

ユリ科 多年性草本

黄精は、本来中国産のカギクマバナルコユリの根茎を指すが、日本では近縁種のナルコユリが代用として用いられてきた。

ナルコユリは同属植物のアマドコロとよく似ているが、アマドコロの根茎は生薬の玉竹(ギョクチク、別名イズイ)である。しかしこのアマドコロ属は非常に種類が多く、区別しがたいものも少なくない。このため薬材では太いものを黄精、細いものを玉竹として扱っていることもある。

日本の民間では江戸時代に滋養・強精薬としてブームとなり、砂糖漬けにした黄精が売られていた。現在でも東北地方には黄精のエキスを入れた黄精飴が売られている。黄精に砂糖を加え、焼酎につけたものを黄精酒といい、精力減退や病後回復の滋養・強壯薬として知られている。小林一茶も黄精酒を愛飲したと書き記している。今日でも滋養・強壯の目的で家庭薬やドリンク剤に黄精が配合されている。



薬用部分

根茎(蒸したものをを用いることが多い)

産地

日本(ナルコユリ)、中国(カギクマバナルコユリ)

主な成分

配糖体: エピメジン

フラボノイド: イカリイン

アルカロイド: マグノフリン

主な薬効

滋養強壯薬、虚弱者や病後の体力増強、精力減退、糖尿病、肺結核に用いる。

代表的処方

【黄精湯】

オウセイトウ

病後の衰弱、慢性病による消耗性の栄養不良に用いる。

(処方内容) 黄精/枸杞子/生地黄/黄耆/党参

文献報告

【脂肪生成抑制】

Negative regulation of adipogenesis by kaempferol, a component of Rhizoma Polygonati falcatum in 3T3-L1 cells

Biol. Pharm. Bull, 2012; 35, 1525-33

【骨粗しょう症抑制】

Protective effects of Polygonatum sibiricum polysaccharide on ovariectomy-induced bone loss in rats

J. Ethnopharmacol, 2011, 136, 224-9

※参考文献: 「生薬単」「日本薬局方」「漢方のくすりの事典」「日本薬草全書」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562

URL: www.fukudaryu.co.jp